

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

資料2

基本方針	1	市民協働の担い手の育成・活用	担当課	市民協働課
基本施策	(1)	市民活動への参加のきっかけづくり		
事業No	1	イベント等を活用した市民活動に関するPRの実施		
P	事業内容	多くの市民が集まるイベントなどを活用し、市民活動に関するPRをすることで、市民の理解を深め、市民活動への参加のきっかけづくりを行います。		
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組	引き続き、多くの市民の参加が予想されるイベント等で啓発します。PR内容についても効果的な啓発となるよう検討していきます。		
D C A	事業の実績	福祉まつりや男女共同参画のイベントにおいて、市民協働推進基金の寄附金募集や、市民活動パンフレットの配布等を行い、ラジオで市民活動についてのPRも実施しました。また、交流センターの来館者は特定の人が多いため、アンフォーレ1階で臨時相談窓口「出張わくわくセンター」を開設し、市民活動啓発を3回実施しました。交流センターを知らなかった市民に興味をもってもらうことができました。		
	施策の進捗度	A : 順調に進捗している B : 概ね順調であるが、改善の余地がある C : 遅れている（大幅な改善が必要） 達成： 施策自体の達成		A
	実績から みえてきた課題	交流センター以外の場所でのきっかけづくりとなるようなPRを続けていく必要があります。		
	課題解決のために 行う取組 (改善点)	イベント等での市民活動に関するPR活動を継続します。また、市民に市民活動事例や市民活動補助金制度、補助対象事業について周知し、市民活動についての関心を促していきます。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		1	市民協働の担い手の育成・活用	担当課	市民協働課
基本施策		(1)	市民活動への参加のきっかけづくり		
事業No		2	被災地ボランティア活動に対する支援		
P	事業内容		災害の発生した地域で行う災害支援活動、復興支援活動及び被災地の復興につながる交流活動を支援するため、これらの活動に要する費用の一部を被災地ボランティア活動給付金として支給します。		
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組		本施策の目的を果たすため、被災地ボランティア活動に対する支援についてのPR方法等の見直しを図る必要があります。		
D C A	令和 元 年 度	事業の実績		対象者に対し、被災地ボランティア活動給付金として支給しました。 支給額345,300円（36件、40人） また、社協だよりや広報あんじょうで、活動給付金制度についてPRしました。	
		施策の進捗度		A：順調に進捗している B：概ね順調であるが、改善の余地がある C：遅れている（大幅な改善が必要） 達成：施策自体の達成	
		実績から みえてきた課題		H30年度 636,400円（55件、69人） 支給対象者や件数、支給額が減っているため、原因を追究する必要があります。	
		課題解決のために 行う取組 (改善点)		事業主体である安城市社会福祉協議会と被災地ボランティア活動に対する支援について、現在問題となっていることの共有や支援の在り方について協議を行っていきます。	

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		1	市民協働の担い手の育成・活用		担当課	社会福祉協議会
基本施策		(1)	市民活動への参加のきっかけづくり			
事業No		3	ボランティア体験プログラムの開催			
P	事業内容		市内の地域福祉活動を知り、ボランティアを始める機会を提供するために、ボランティア体験プログラムを開催します。			
	前年度(Action)、課題解決のために行う取組		市民への周知を行い参加者の増加に努めています。 また参加者に様々な分野のボランティア体験をしてもらうため多様な協力施設の増加に努めています。			
D	令和元年度	事業の実績	市内62か所の福祉関係施設及び地域で活動する団体の協力のもと、延べ199人がボランティア体験プログラムに参加しボランティアの体験を行いました。			
		施策の進捗度	A : 順調に進捗している B : 概ね順調であるが、改善の余地がある C : 遅れている（大幅な改善が必要） 達成： 施策自体の達成			A
		実績からみえてきた課題	市内福祉施設等の協力のもと、夏休み期間に参加者がボランティア体験を行うボランティア体験プログラムを実施し、中学生、高校生を中心に多くの参加がありました。今後も、ボランティアを始める機会として継続して事業を行っていく必要があります。			
		課題解決のために行う取組(改善点)	市民への周知を行い参加者の増加に努めていく。また参加者に様々な分野のボランティア体験をしてもらうため、多様な施設等の協力を得て体験施設の増加に努めています。			

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		1	市民協働の担い手の育成・活用	担当課	市民協働課
基本施策		(2)	市民協働のまちづくりの担い手の育成		
事業No.		1	市民活動入門講座の開催		
P	事業内容		市内で活動する市民活動団体の活動内容を紹介したり、活動を実際に体験する講座を開催します。		
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組		より市政に関心を持つ市民の参加が見込まれるよう、講座の内容や広報の中身を検討していきます。		
D C A	令和 元 年 度	事業の実績	市民活動をしてみたい市民と活動している団体を対象とした「わくわくサロン」を交流センターにて5回開催しました。市民の関心が高い防災や子育て、コミュニケーションに関することなどの講座を開催し、参加者は延べ120名でした。また、「わくわくフェスティバル」にて、団体が活動内容を紹介し、1,732名の参加者が市民活動を体感しました。		
		施策の進捗度	A : 順調に進捗している B : 概ね順調であるが、改善の余地がある C : 遅れている（大幅な改善が必要） 達成： 施策自体の達成		
		実績から みえてきた課題	幅広い参加者を募り、活動に繋がられるようにしていく必要があります。		
		課題解決のために 行う取組 (改善点)	引き続き、市民活動を体感できる機会を多く設けます。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		1	市民協働の担い手の育成・活用	担当課	生涯学習課
基本施策		(2)	市民協働のまちづくりの担い手の育成		
事業No		2	シルバーカレッジの開催		
P	事業内容		熟年世代を対象としたシルバーカレッジを開催します。また、講座修了者がボランティア活動や地域活動などの多様な活動へ主体的に参加できるよう支援します。		
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組		レベルアップ講座のアンケートでは、一部の受講者が町内会などに高い関心を示す結果がえられたので、その意向を活かした講座などを実施します。		
D C A	令和元年度	事業の実績	1年生44名、2年生44名が、それぞれ年間23回の講座を受講しました。さらにOBも対象者としたレベルアップ講座を1回開催しました（新型コロナウイルス対応で全3回のうち2回を中止）。		
		施策の進捗度	A : 順調に進捗している B : 概ね順調であるが、改善の余地がある C : 遅れている（大幅な改善が必要） 達成： 施策自体の達成	A	
		実績から みえてきた課題	受講者同士の仲間づくりや知識などを身に着ける点ではねらい通りでした。一方まちづくりへの参加啓発を行ってはいますが、受講者の意識向上にはあまり結びつきませんでした。		
		課題解決のために 行う取組 (改善点)	まちづくりに関する講座を設定したり、現在も継続している市民活動の紹介などで、受講者の関心を高めていきます。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針	1	市民協働の担い手の育成・活用	担当課	社会福祉協議会
基本施策	(2)	市民協働のまちづくりの担い手の育成		
事業No	3	ボランティア養成講座の開催		
P	事業内容	ボランティア入門講座や手話講座など、福祉に関するボランティア活動を行う人材を養成する講座を開催します。		
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組	地域で存在しているボランティアについて調査し、ニーズに沿ったボランティアの講座を開催していきます。 既に活動しているボランティア団体においては自主的に講座を実施していけるように支援していきます。		
D C A	令和 元 年 度	事業の実績	ボランティア活動に参加するきっかけとなる講座（手話、傾聴、文字支援、シニア男性向け、災害ボランティアコーディネーター）の開催や、すでに活動している人がスキルアップを図るための講座「ボランティアのためのスマホ、パソコン初心者相談会」を実施しました。	
		施策の進捗度	A：順調に進捗している B：概ね順調であるが、改善の余地がある C：遅れている（大幅な改善が必要） 達成：施策自体の達成	A
		実績から みえてきた課題	福祉技術系ボランティアや災害ボランティアコーディネーター、シニア男性向けの講座等、ボランティアを始める機会となる講座を開催しています。講座参加者が少ないことや、講座から継続的なボランティア活動に繋がらないという課題があります。	
		課題解決のために 行う取組 (改善点)	講座参加者を募るため、チラシ、社協だより、メーリングリスト等様々な手段でPRを行います。また、ニーズに応じた内容の講座を実施することで、参加者の増加と参加者の継続的なボランティア活動を図ります。	

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針	1	市民協働の担い手の育成・活用	担当課	市民協働課
基本施策	(3)	市民協働サポーターの育成・活用		
事業No	1	市民協働サポーター養成講座の開催		
P	事業内容	市や市民活動センターとともに市民協働を推進する市民協働サポーターを養成する講座を開催します。		
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組	引き続き、より市政に関心を持つ市民の参加が見込まれるよう、講座の内容や広報の中身を検討していきます。		
D C A	令和元年度	事業の実績	パブリックコメントを読み、市のまちづくりについて、市民としてできるアイデアや意見を気軽に出し合う「パブコメリーディング会」を4回開催しました。延べ19名が参加しました。	
		施策の進捗度	A : 順調に進捗している B : 概ね順調であるが、改善の余地がある C : 遅れている（大幅な改善が必要） 達成： 施策自体の達成	A
		実績から みえてきた課題	多くの市民の参加を促すため、人材育成の内容を検討する必要があります。	
		課題解決のために 行う取組 (改善点)	時代にあったリーダーの養成をしていくため、世界規模で取り組まれているSDGsを知り、SDGsの視点での活動展開や活動の啓発・サポートができる市民を養成していきます。	

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		1	市民協働の担い手の育成・活用	担当課	市民協働課
基本施策		(3)	市民協働サポーターの育成・活用		
事業No		2	市民協働サポーターの実践の場の提供		
P	事業内容		市民協働サポーターが、研修を通じて得た能力を発揮し、実践する機会を提供します。		
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組		引き続き、市民が市民活動を支え合う場となる実践の機会について、市民協働サポータークラブ、市民交流センターと協議し取り組んでいきます。		
D C A	令和 元 年 度	事業の実績	市民協働サポーターによるサポーター養成講座を開催しました。 また、市民活動補助金成果報告会で市民協働サポーターにファシリテーターを依頼していましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止により中止となったため、補助対象事業についての評価を依頼し、その評価を公表しました。		
		施策の進捗度	A : 順調に進捗している B : 概ね順調であるが、改善の余地がある C : 遅れている（大幅な改善が必要） 達成： 施策自体の達成		
		実績から みえてきた課題	実践する場の検討が必要であると感じます。		
		課題解決のために 行う取組 (改善点)	引き続き、市民協働サポータークラブ及び市民交流センターと取り組んでいきます。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針	1	市民協働の担い手の育成・活用	担当課	市民協働課
基本施策	(4)	市職員の意識改革の推進		
事業No	1	職員の市民活動への自主的・主体的参加の推進		
P	事業内容	職員向けに、市民活動に関する情報を定期的・継続的に提供し、自主的・主体的参加を促します。		
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組	引き続き、市民活動に関する情報の発信・具体例などを示すことで、市職員の市民活動及び協働に関する理解の促進に努めていきます。		
D C A	令和 元 年 度	事業の実績	交流センターが発行する講座や市民活動情報誌「ほらりん」（年4回）を庁内掲示板にて職員へ周知しました。 また、職員研修を実施し、市民活動の事例を紹介するなどしました。	
		施策の進捗度	A : 順調に進捗している B : 概ね順調であるが、改善の余地がある C : 遅れている（大幅な改善が必要） 達成： 施策自体の達成	A
		実績から みえてきた課題	市民活動の参加を促すような情報提供をする必要があります。	
		課題解決のために 行う取組 (改善点)	発信する情報に関心をもってもらえるよう工夫します。	

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		1	市民協働の担い手の育成・活用		担当課	市民協働課
基本施策		(4)	市職員の意識改革の推進			
事業No		2	職員向け市民協働研修の実施			
P	事業内容		協働のまちづくりを進める上で、市職員に必要とされる考え方や姿勢などを学ぶ研修会を開催します。			
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組		引き続き、各課が業務上における課題解決のために、どのように協働という視点・手法を取り入れれば生産性が向上されるのか、企画検討していきます。			
D C A	令和 元 年 度	事業の実績	NPO法人まちの縁側育み隊の名畑氏を講師に招き、「市民協働をどう考えるか～ファシリテーションの体験で市民協働の現場感覚を磨こう～」と題して研修を開催し、入庁後10～15年程度の職員34名が参加しました。			
		施策の進捗度	A：順調に進捗している B：概ね順調であるが、改善の余地がある C：遅れている（大幅な改善が必要） 達成：施策自体の達成			A
		実績から みえてきた課題	市民協働研修というよりファシリテーション研修のようであったと感じた職員がいました。			
		課題解決のために 行う取組 (改善点)	市民協働の具体的な事例をより盛り込んだ研修にしていきます。			

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針	2	活動場所と団体に対する支援の充実	担当課	市民協働課
基本施策	(1)	市民活動の拠点施設と支援機能の充実		
事業No	1	ふれあい補償制度の運用		
P	事業内容	地域における活動及び市民活動に対して、怪我や賠償責任を補償する制度を運用します。		
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組	引き続き、各町内会ほか市民に向け周知を行っていきます。		
D 令和 元 年度	事業の実績	支払件数：39件 支払金額：611,407円		
	施策の進捗度	A : 順調に進捗している B : 概ね順調であるが、改善の余地がある C : 遅れている（大幅な改善が必要） 達成： 施策自体の達成		A
	実績から みえてきた課題	補償対象や申請方法など、分かりにくい部分があります。		
	課題解決のために 行う取組 (改善点)	引き続き、各町内会ほか市民に向け、制度について分かりやすい説明で周知していきます。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		2	活動場所と団体に対する支援の充実	担当課	市民協働課
基本施策		(1)	市民活動の拠点施設と支援機能の充実		
事業No		2	市民活動センターの活性化		
P	事業内容		利用者の声を市民活動センターの運営に反映し、市民活動団体の利用を促進します。		
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組		指定管理者の目指す「サービスの向上」を指針として、利用者の声やアンケート調査により意見を反映し、施設運営の改善や対応に努めています。		
D C A	令和 元 年 度	事業の実績	利用者の声やアンケート調査により、要望のあった展示ボード・ソファ設置などの設備を整え、団体のイベントPRなど積極的な情報発信のため、館内掲示及びフェイスブックに加え、新たにLINE配信サービスとInstagramを開設しました。		
		施策の進捗度	A : 順調に進捗している B : 概ね順調であるが、改善の余地がある C : 遅れている（大幅な改善が必要） 達成： 施策自体の達成		
		実績から みえてきた課題	多くの世代の利用につながる運営が必要となります。		
		課題解決のために 行う取組 (改善点)	引き続き、利用者の声やアンケート調査を実施し、センターの運営に反映していきます。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		2	活動場所と団体に対する支援の充実	担当課	市民協働課
基本施策		(1)	市民活動の拠点施設と支援機能の充実		
事業No		3	支援拠点施設同士の連携強化		
P	事業内容		市民活動の支援拠点施設同士が、市民活動に関する情報を共有し、それぞれの活動に役立てるために連携を図るとともに、団体の活動拠点施設とも、情報共有などを通じて連携していきます。		
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組		引き続き、関係部署と協力し、情報共有の場を設けていきます。また、生涯学習課に対しては、生涯学習ボランティアセンターとの連携や、青少年の家とも情報が図れるよう働きかけを行います。		
D	令和 元 年 度	事業の実績	まちづくり推進事業として、社会福祉協議会ボランティアセンター、青少年の家ボランティア活動センター、生涯学習ボランティアセンター、市民活動センターで担当者会議を2回開催し、現状や課題等について情報共有しました。		
C		施策の進捗度	A : 順調に進捗している B : 概ね順調であるが、改善の余地がある C : 遅れている（大幅な改善が必要） 達成： 施策自体の達成		A
		実績から みえてきた課題	ボランティア活動を活性化させるための会議としていく必要があります。		
A		課題解決のために 行う取組 (改善点)	引き続き、情報共有し、ボランティア活動の支援の充実を図るため、会議を開催していきます。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		2	活動場所と団体に対する支援の充実	担当課	市民協働課
基本施策		(1)	市民活動の拠点施設と支援機能の充実		
事業No		4	市民活動センター・生涯学習ボランティアセンターにおける相談・コーディネート機能の充実		
P	事業内容		市民活動センター及び生涯学習ボランティアセンターのスタッフや職員が行う相談・コーディネート業務に関する機能を充実させます。機能の充実にあたっては、スタッフや職員の資質向上だけでなく、中間支援活動を行う市民活動団体と連携していきます。		
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組		施設利用者に向け、センターにおける支援事例の紹介として、相談事例などの「相談・マッチングコーナー」を館内掲示として設けることで、新規利用者の取り込み、相談件数やマッチング率の増進を図っていきます。		
D C A	令和 元 年 度	事業の実績	交流センターにおいて、令和元年度に「相談・マッチングコーナー」の看板を設置し、団体情報・マッチング情報を掲示しました。また、アンフォーレ1階で臨時相談窓口「出張わくわくセンター」を開設し、市民活動啓発を実施しました。 交流センターにおける相談件数：258件、マッチング件数：101件		
		施策の進捗度	A : 順調に進捗している B : 概ね順調であるが、改善の余地がある C : 遅れている（大幅な改善が必要） 達成： 施策自体の達成		
		実績から みえてきた課題	H29年度 相談件数：96件、マッチング件数：47件 H30年度 相談件数：413件、マッチング件数：80件 相談件数は増減していますが、マッチング件数は毎年増加しています。		
		課題解決のために 行う取組 (改善点)	引き続き、相談・マッチングのしやすい環境を作り、増進を図ります。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		2	活動場所と団体に対する支援の充実	担当課	生涯学習課
基本施策		(1)	市民活動の拠点施設と支援機能の充実		
事業No		4	市民活動センター・生涯学習ボランティアセンターにおける相談・コーディネート機能の充実		
P	事業内容		市民活動センター及び生涯学習ボランティアセンターのスタッフや職員が行う相談・コーディネート業務に関する機能を充実させます。機能の充実にあたっては、スタッフや職員の資質向上だけでなく、中間支援活動を行う市民活動団体と連携していきます。		
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組		引き続き、人材養成のための講座を実施します。		
D C A	令和元年度	事業の実績	「プロが語る講座のウラガワ」講座（全3回）を実施しました。また、中間支援組織ボランティア支援担当者顔合わせ会に職員が出席しました。		
		施策の進捗度	A：順調に進捗している B：概ね順調であるが、改善の余地がある C：遅れている（大幅な改善が必要） 達成：施策自体の達成		A
		実績から みえてきた課題	講座そのものは人気が高く新たな市民団体も生まれましたが、ボランティアセンターの運営には結びつきませんでした。		
		課題解決のために 行う取組 (改善点)	引き続き、人材養成のための講座を実施します。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針	2	活動場所と団体に対する支援の充実	担当課	アンフォーレ課	
基本施策	(1)	市民活動の拠点施設と支援機能の充実			
事業No	5	図書情報館の運営			
P	事業内容	学習機会や交流の場であるとともに、市民活動や地域活動などに関する知識や情報を提供する拠点施設として、図書情報館の運営を行います。			
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組	読み聞かせボランティアの活動をさらに活発にしていくため、ボランティア団体との連携をさらに深めていきます。			
D	令和 元 年 度	事業の実績	子どもの読書活動推進に貢献している市内の読み聞かせグループに対して研修や講座の開催、活動の支援を行いました。 また、市民活動や地域活動に関する本の購入を行いました。		
		施策の進捗度	A : 順調に進捗している B : 概ね順調であるが、改善の余地がある C : 遅れている（大幅な改善が必要） 達成： 施策自体の達成	A	
		実績から みえてきた課題	読み聞かせボランティアの担い手となるスタッフの育成が必要です。		
		課題解決のために 行う取組 (改善点)	読み聞かせボランティアの活動をさらに活発にしていくため、ボランティア団体との連携をさらに深めていきます。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		2	活動場所と団体に対する支援の充実	担当課	生涯学習課
基本施策		(1)	市民活動の拠点施設と支援機能の充実		
事業No		6	地区公民館の運営		
P D C A	事業内容		学習機会や交流の場であるとともに、地域に軸足を置いた地域のまちづくり、ひとづくりの拠点施設として、地区公民館の運営を行います。		
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組		各施設の個別整備計画を作成し、計画的に施設を整備する必要があります。		
	令和 元 年 度	事業の実績	令和2年度に施設保全課が全庁的に各施設の個別整備計画を策定予定であるため、計画策定にあたり、各施設の不具合状況を調査しました。		
		施策の進捗度	A : 順調に進捗している B : 概ね順調であるが、改善の余地がある C : 遅れている（大幅な改善が必要） 達成： 施策自体の達成	A	
		実績から みえてきた課題	誰もが利用しやすい施設になるよう、計画的な施設整備が必要です。		
課題解決のために 行う取組 (改善点)		計画的に施設整備をしていきます。			

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		2	活動場所と団体に対する支援の充実	担当課	社会福祉協議会
基本施策		(1)	市民活動の拠点施設と支援機能の充実		
事業No		7	地域福祉センターの運営		
P	事業内容		地域福祉活動を行う拠点施設として、福祉センターの管理運営を行います。		
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組		安城市・安城市社会福祉協議会で発行する「あんじょうコミュニティBOOK」などを参考に、職員が他の福祉センター等での活動を把握することで、住民ニーズに応えられる管理運営を検討していきます。		
D C A	令和 元 年 度	事業の実績	7か所の福祉センターの管理運営と1か所の福祉センター事業を行い、福祉センターにおいて介護予防のための体操や高齢者・障害者を対象とした講座、サロンを市内の他の福祉センター事業や地域の声を参考に開催しました。		
		施策の進捗度	A : 順調に進捗している B : 概ね順調であるが、改善の余地がある C : 遅れている（大幅な改善が必要） 達成： 施策自体の達成		A
		実績から みえてきた課題	地域特性に応じ各福祉センターで講座、サロンを実施できています。今後も住民の声を聞きながら、市内の他の福祉センターで行う先駆的な事業を参考に、各々の福祉センターが地域福祉活動の拠点として取組を継続する必要があります。		
		課題解決のために 行う取組 (改善点)	福祉センターを地域福祉の拠点として運営していくため、市内のさまざまな事例や他の福祉センター等での活動を職員が把握することで、住民ニーズに応えられる管理運営を引き続き検討する必要があります。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		2	活動場所と団体に対する支援の充実	担当課	社会福祉協議会
基本施策		(1)	市民活動の拠点施設と支援機能の充実		
事業No		8	ボランティアセンターにおける相談・コーディネート機能の充実		
P	事業内容		社会福祉協議会ボランティアセンターなどにおいて、ボランティア活動に関する相談を受け付けます。また、ボランティア活動をしたい人と、ボランティアを必要とする人や団体、福祉施設とのコーディネートをしします。		
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組		多様化している相談に対応できるように、相談員の資質向上に向けた勉強会を行っています。		
D C A	令和 元 年 度	事業の実績	毎週火～土に、担当職員と相談員でボランティア相談に応じています。ボランティア団体・個人については登録制度をとり、活動者の把握に努めました。ボランティアニーズに応じて紹介や募集などのコーディネート、関係者への相談を行っています。		
		施策の進捗度	A : 順調に進捗している B : 概ね順調であるが、改善の余地がある C : 遅れている（大幅な改善が必要） 達成： 施策自体の達成		A
		実績から みえてきた課題	ボランティア相談者のニーズに応じ、活動先の紹介や、活動者の派遣、情報提供などの支援を実施しています。今後も引き続き、ボランティア相談や登録支援等を行い、市内のボランティア活動の充実を図っていく必要があります。		
		課題解決のために 行う取組 (改善点)	ボランティア相談員の資質向上のための勉強会を継続して行います。 また、地区社協との情報共有を進め、ボランティア活動者として欲しい人の情報をより多く把握することで、柔軟にボランティア相談に応じられるようにします。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針	2	活動場所と団体に対する支援の充実	担当課	市民協働課	
基本施策	(2)	地域課題解決につながる市民活動の促進			
事業No	1	円卓会議の開催			
P	事業内容	市民活動団体や町内会、企業などが集まり、地域が抱える課題について一緒に話し合い、考え、その後の活動につなげることを目的とした円卓会議を開催します。			
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組	引き続き、地域の課題解決に向き合う当事者が、地域が抱える課題について共に考え、話し合える場づくりを行っていきます。			
D C A	令和 元 年 度	事業の実績	交流センターにて「団体交流会」を開催し、他組織を巻き込み活動の幅を広げている団体の基調講話「コラボを増やす！仲間づくりのマル秘術」の後、グループごとに、他団体と協働し活動を行う想定でイベント立案をするワークショップ「実現可能な仮想イベントを立案してみよう」を実施しました。		
		施策の進捗度	A : 順調に進捗している B : 概ね順調であるが、改善の余地がある C : 遅れている（大幅な改善が必要） 達成： 施策自体の達成	B	
		実績から みえてきた課題	市民活動団体同士のワークショップは開催しましたが、町内会や企業は参加していません。		
		課題解決のために 行う取組 (改善点)	地域の課題解決につながるような話し合いの場を提供していきます。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		2	活動場所と団体に対する支援の充実	担当課	市民協働課
基本施策		(2)	地域課題解決につながる市民活動の促進		
事業No		2	団体同士がつながる交流会の開催		
P D C A	事業内容		市民活動団体や町内会、企業などがそれぞれの活動を理解し、それぞれが顔見知りとなることで、新たな協働を生み出すことを目的とした交流会を開催します。		
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組		引き続き、地域の課題解決に向き合う当事者が、地域が抱える課題について共に考え、話し合える場づくりを行い、団体同士の協働につなげていきます。		
	令和 元 年 度	事業の実績	交流センターで開催の「わくわくフェスティバル」では、企業が協賛し、登録団体や町内会による実行委員会が企画・運営して、団体の交流ができました。また、「団体交流会」では、基調講話「コラボを増やす！仲間づくりのマル秘術」を開催し、市民団体同士のワークショップを行いました。		
		施策の進捗度	A : 順調に進捗している B : 概ね順調であるが、改善の余地がある C : 遅れている（大幅な改善が必要） 達成： 施策自体の達成		
		実績から みえてきた課題	市民団体と町内会、企業がより理解し合えるような交流の場が必要です。		
		課題解決のために 行う取組 (改善点)	引き続き、交流できる場を提供し、団体同士の協働につなげていきます。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		2	活動場所と団体に対する支援の充実	担当課	生涯学習課
基本施策		(2)	地域課題解決につながる市民活動の促進		
事業No		3	市民企画講座の充実		
P	事業内容		現代的な課題の解決に向けて、市民自らが企画・運営する市民企画講座の充実を図ります。		
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組		企画・運営がより充実したものになるようスキルアップのための講座を開催します。		
D C A	令和 元 年 度	事業の実績	16団体の応募があり11講座を実施、206名の参加がありました。		
		施策の進捗度	A : 順調に進捗している B : 概ね順調であるが、改善の余地がある C : 遅れている（大幅な改善が必要） 達成： 施策自体の達成		A
		実績から みえてきた課題	応募団体が増加し、予算上の制約から企画不採用の事例がありました。		
		課題解決のために 行う取組 (改善点)	まちかど講座の制度を利用して一部の講師を市職員とすることで一講座あたりの講師料を圧縮し、採用する企画を増やしていきます。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針	2	活動場所と団体に対する支援の充実	担当課	社会福祉協議会
基本施策	(2)	地域課題解決につながる市民活動の促進		
事業No	4	町内福祉委員会研修会の開催		
P D C A	事業内容		町内福祉委員会の活動を活性化させるために、町内福祉委員会全体研修会などの研修会を開催します。	
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組		今後も継続して、市内全域での啓発のための講演会や活動発表の場を提供していくことにより、市民活動者の育成、活用を図っていくことが必要です。	
	令和元年度	事業の実績	町内福祉委員会全体研修会を開催したところ、70町内福祉委員会（全76）の委員をはじめ多くの関係者に出席していただきました。今回の研修会では、平成30年度に地区社協から見守り活動の推進指定を受けた97の町内福祉委員会の中から、4つの町内福祉委員会の取り組みについて活動発表をしていただき、日本福祉大学中央福祉専門学校校長の長岩嘉文氏から活動報告に対するコメントをいただきました。	
		施策の進捗度	A : 順調に進捗している B : 概ね順調であるが、改善の余地がある C : 遅れている（大幅な改善が必要） 達成： 施策自体の達成	A
		実績から みえてきた課題	アンケート結果では、「他の地区の現状を知ることや課題を知ること、今後の活動を考えるきっかけとなる」「自分の気づかないところが見えてきて参考になる。」などの意見がある一方、「集合住宅ならではの難しさ」や「サロン活動での参加者の固定化」「新規の参加者（特に男性）の少なさ」などが課題として挙がっていました。	
		課題解決のために 行う取組 (改善点)	研修会での事例発表や講師の講演テーマなどを検討するうえで、アンケート結果や日頃の業務を通じて町内福祉委員会が抱える課題を把握するとともに、町内福祉委員会が行った成功事例や工夫された事例の収集に取り組みます。	

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		2	活動場所と団体に対する支援の充実		担当課	社会福祉協議会
基本施策		(2)	地域課題解決につながる市民活動の促進			
事業No		5	地域福祉活動を推進するための研修会の開催			
P	事業内容		防災・福祉の研修会など、生活に密着した講習会を実施し、個別テーマごとの実践者の育成を行うとともに、他地域の先進的な活動事例などを紹介し、活動のヒントを得られるような研修会を開催します。			
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組		地域住民のニーズに合わせた勉強会、講演会、講座の開催をしていくことで、担い手の育成・活用を図っていきます。			
D C A	令和 元 年 度	事業の実績	中学校区単位で、地区社協主催の地域福祉活動勉強会を9回開催するとともに、福祉や防災をテーマとした各種講座や中学生防災隊防災教室、ハートフルケアセミナー等を125回開催しました。また、地域における課題に対応した生活支援ネットワーク会議を21回開催しました。			
		施策の進捗度	A : 順調に進捗している B : 概ね順調であるが、改善の余地がある C : 遅れている（大幅な改善が必要） 達成： 施策自体の達成			A
		実績から みえてきた課題	勉強会等では多様なテーマを取り上げ、多様な地域住民のニーズに対応することができ、テーマごとに関心を高める啓発的な効果はありましたが、地域福祉活動の担い手として育成するためには、勉強会等の開催後のフォローアップを工夫する必要があります。			
		課題解決のために 行う取組 (改善点)	勉強会、講演会、講座を開催するうえで、地域住民の問題意識やニーズを十分に把握するとともに、勉強会等の開催後、参加者に対し、今後の担い手として活動ができるような働きかけを行っていきます。			

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針	2	活動場所と団体に対する支援の充実	担当課	社会福祉協議会	
基本施策	(2)	地域課題解決につながる市民活動の促進			
事業No	6	成果報告会の開催			
P	事業内容	自主防災組織の活動や地域見守り活動について、モデル事業を実施した町内会などの活動を市内の他の町内会に波及させるため、実際にどのように取り組んできたのか、そのノウハウや活動の秘訣などを紹介する活動事例発表会を開催します。			
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組	各地区社協で新たに町内福祉委員会を指定して活動を推進することと合わせ、他の町内福祉委員会の参考になるよう活動報告を共有できる機会の提供を継続します。自主防災組織支援事業については、今後も一般避難所運営について各地域で、訓練を通じて避難所開設のノウハウを普及させ、改善していくことと、福祉避難スペースの運用や福祉避難所との連携も検討し、多様な主体が協力・連携する中で地域住民の力で主体的に避難所を運営する力をつけ、訓練を通じて普及させていくことを継続します。			
D C A	令和元年度	事業の実績	安祥中学校区の各町内会と実施したワークショップや訓練の成果を手引書や指示書にまとめて成果報告会で発表しました。当年度をもって、市内全ての中学校を会場として避難所に関する訓練を実施することができました。また、これまでの避難所に関する取り組みの集大成として、避難行動から避難所運営に関する内容までをまとめた手引書を作成しました。		
		施策の進捗度	A : 順調に進捗している B : 概ね順調であるが、改善の余地がある C : 遅れている（大幅な改善が必要） 達成： 施策自体の達成	達成	
		実績から みえてきた課題	避難所の手引書を活用する住民に対して、手引書の存在と活用方法を継続して周知することが必要です。また、避難所の収容人数に限りがあるため、避難所の開設及び運営をスムーズに行うだけでは、地域課題の解決にはならないことがわかりました。		
		課題解決のために行う取組 (改善点)	避難所への避難を前提とするのではなく、在宅で避難生活が送れるよう、各世帯において家具転倒防止や食料備蓄などの重要性について啓発することが求められます。		

※成果報告会の開催については、令和元年度をもって終了とします。

今後は、2（2）4及び2（2）5の研修会にて、地域課題解決につながる市民活動促進を充実していきます。

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		2	活動場所と団体に対する支援の充実		担当課	社会福祉協議会
基本施策		(2)	地域課題解決につながる市民活動の促進			
事業No		7	福祉事業者、関係団体などの交流会の開催			
P	事業内容		様々な主体が実施する活動を活性化するため、町内福祉委員会、ボランティア、NPO、市民活動団体、福祉事業者などが一堂に会する交流会、サロン活動で活かせる情報を得ることが出来る場を設けます。			
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組		各地区社協の地域の実情にあった様々な主体が参加する情報交換の機会や場づくりに取り組みます。			
D C A	令和 元 年 度	事業の実績		サロン活動に活かせる情報を得ることが出来る場として、市域単位での開催ではなく、地区単位でサロン活動情報交換会等（7地区計7回）を開催しました。		
		施策の進捗度		A：順調に進捗している B：概ね順調であるが、改善の余地がある C：遅れている（大幅な改善が必要） 達成：施策自体の達成		B
		実績から みえてきた課題		地区単位での開催に変更したことにより、今まで知らなかった情報が得られたとの意見があり、一定の効果は得られたと思われますが、一方では、従来の市域単位での開催を望む意見もありました。		
		課題解決のために 行う取組 (改善点)		サロン活動に活かせる情報を得ることが出来る場については、市域単位と地区単位での開催目的や方法、頻度等について精査し、それぞれの位置づけを整理したうえで事業を企画する必要があります。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		3	財政面と組織面の支援	担当課	企画政策課
基本施策		(1)	補助金など財政面に関する支援		
事業No		1	健幸都市の推進		
P	事業内容		安城市第8次総合計画の目指す都市像「幸せつながる健幸都市 安城」を実現するためのプロジェクトを民間から募り、3年後の自立自走を目指したプログラムとなるよう事業の推進補助金の交付と適切な支援を行います。		
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組		引き続き、各事業がPDCAを繰り返し、プロジェクトを軌道に乗せるべく市の関係部署や専門家とも協力して進捗状況の確認、課題の抽出と対応策の検討などを行います。		
D C A	令和元年度	事業の実績	3つの採択事業について、各事業の目標達成度や課題の違いに応じた支援を行いました。また、各事業の3年間の事業の成果と今後の展開を報告する「ケンサチフォーラム」を12/15（日）に開催しました。		
		施策の進捗度	A：順調に進捗している B：概ね順調であるが、改善の余地がある C：遅れている（大幅な改善が必要） 達成：施策自体の達成		達成
		実績から みえてきた課題	今後、この事業を土台として、社会的課題解決に取り組む企業・団体・個人を増やし、人とつながること、役割を担うことにより生きがいを創り出すことで、健幸につながる取組みや施策の実施を行うことが期待されています。		
		課題解決のために 行う取組 (改善点)	地域の社会課題を解決するためにステークホルダーが主体的に協力する取り組みはSDGsの取り組みにも重なることから、SDGsの取り組みを一層推進していきます。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		3	財政面と組織面の支援	担当課	市民協働課
基本施策		(1)	補助金など財政面に関する支援		
事業No		2	市民活動補助制度の運用		
P	事業内容		「市民協働推進基金」を財源とする「市民活動補助制度」を運用し、地域が抱える諸課題を解決するための市民活動を支援します。		
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組		引き続き、市民交流センターや地区公民館などの関係部署に協力を依頼し、市民活動を支える市の支援策として、団体の利用へと繋げていきます。		
D C A	令和 元 年 度	事業の実績	市民提案型事業：2件、行政提示型事業：1件、協働提案型事業：3件 補助金総額：472,000円 令和元年度実施事業から協働提案型事業の補助を新設しました。		
		施策の進捗度	A：順調に進捗している B：概ね順調であるが、改善の余地がある C：遅れている（大幅な改善が必要） 達成：施策自体の達成		A
		実績から みえてきた課題	補助制度への申請件数が伸びていないことが課題です。（H29年度：8件、H30年度：6件、R元年度：6件）		
		課題解決のために 行う取組 (改善点)	補助制度のPRを実施し、申請しやすい制度になるように見直していきます。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針	3	財政面と組織面の支援	担当課	市民協働課
基本施策	(1)	補助金など財政面に関する支援		
事業No	3	協働事業への支援制度の創設		
P	事業内容	地域の課題を解決する、多様な主体同士の協働事業を公募する「協働事業提案型事業」を、市民活動補助制度の中に新たに創設します。		
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組	引き続き、市民交流センターや地区公民館などの関係部署に協力を依頼し、市民活動補助制度のより一層の周知を図っていきます。		
D C A	令和元年度	事業の実績	令和元年度から協働提案型事業を補助対象事業とし、補助対象事業6件中3件の申請がありました。	
		施策の進捗度	A : 順調に進捗している B : 概ね順調であるが、改善の余地がある C : 遅れている（大幅な改善が必要） 達成： 施策自体の達成	達成
		実績から みえてきた課題	協働事業で補助金申請はあるものの、協働団体の役割分担の分かりづらい部分がありました。	
		課題解決のために 行う取組 (改善点)	申請時や実績報告時に、協働団体のそれぞれの役割を明確に記載できるように、様式や記入方法を見直していきます。	

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		3	財政面と組織面の支援	担当課	市民協働課
基本施策		(1)	補助金など財政面に関する支援		
事業No		4	市民協働推進基金の運用		
P	事業内容		協働のまちづくりを財政面から支援する「市民協働推進基金」を運用するために市民に向けた啓発活動を行います。		
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組		基金の新たな活用について、他自治体の施策やその効果を研究していきます。		
D C A	令和 元 年 度	事業の実績		H31.4.1～R2.3.31 寄付金額 230,000円（6件） 福祉まつりや男女共同参画のイベントにて寄附金の募集をしました。また、他市の補助金制度について調べました。	
		施策の進捗度		A : 順調に進捗している B : 概ね順調であるが、改善の余地がある C : 遅れている（大幅な改善が必要） 達成： 施策自体の達成	
		実績から みえてきた課題		市民活動補助制度の利用が伸びていないため、基金が活用しきれていない課題があります。	
		課題解決のために 行う取組 （改善点）		補助金を利用して事業を実施する団体を増やすため、補助金制度を見直していきます。	

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		3	財政面と組織面の支援	担当課	市民協働課
基本施策		(1)	補助金など財政面に関する支援		
事業No		5	民間助成制度に関する情報提供の実施		
P	事業内容		民間で行われている助成制度の情報を定期的に収集し、メールマガジン、フェイスブック及び館内掲示などの方法を使って積極的に配信します。		
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組		引き続き、情報の収集に努め、団体への情報提供や申請書の書き方などの伴走支援となる体制を整えていきます。		
D C A	令和 元 年度	事業の実績	市民交流センター館内及びホームページに助成金・補助金情報を掲載し、フェイスブックでも配信しました。メールマガジンは、団体の代表者のみの登録であったため、誰でも受け取れるLINEとInstagramを新たに開始し、情報を配信しました。わくわくセンター受付では、企業や市の助成金に関する相談を随時受け付けました。		
		施策の進捗度	A : 順調に進捗している B : 概ね順調であるが、改善の余地がある C : 遅れている（大幅な改善が必要） 達成： 施策自体の達成		
		実績から みえてきた課題	多くの市民にLINEやInstagram等を周知し、積極的に配信していく必要があります。		
		課題解決のために 行う取組 (改善点)	引き続き、助成金等の情報を収集し、団体への情報提供や相談支援等を実施していきます。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針	3	財政面と組織面の支援	担当課	社会福祉協議会
基本施策	(1)	補助金など財政面に関する支援		
事業No	6	地域福祉活動に関する助成制度の運用		
P	事業内容	町内福祉委員会による地域福祉活動を支援するため、助成を行います。		
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組	町内福祉委員会活動への資金助成について、現行の助成事業の運用を継続しますが、地域課題に応じて実施される地域福祉活動に対し、必要に応じて資金助成事業の新設や改廃を実施します。		
D C A	令和 元 年 度	事業の実績	市補助金、社会福祉協議会一般会費、共同募金配分金を財源として、各地区社協や市社協で定めた要綱（5事業）に基づき町内福祉活動に対する助成または補助を実施しました。また、必要に応じて、市補助金（1事業）の利用手続きの案内や支援を実施しました。	
		施策の進捗度	A : 順調に進捗している B : 概ね順調であるが、改善の余地がある C : 遅れている（大幅な改善が必要） 達成： 施策自体の達成	A
		実績から みえてきた課題	福祉活動に対する助成または補助の制度は複数あるため、制度の見直しが必要です。	
		課題解決のために 行う取組 (改善点)	町内福祉委員会にとって利用しやすいよう、必要に応じて書式などの手続き方法や制度の見直しを行います。	

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		3	財政面と組織面の支援	担当課	市民協働課
基本施策		(2)	団体の組織基盤整備に関する支援		
事業No		1	スキルアップ講座の開催		
P	事業内容		I C Tスキル、ファシリテーションなどに関する講座を開催し、市民活動団体メンバーのスキルアップを目指します。		
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組		引き続き、フェイスブックなどのSNSをはじめとした、ネット情報に触れる機会の提供や活動団体の人材育成に関する講座の充実を図っていきます。		
D	令和 元 年 度	事業の実績		P R方法、チラシ作り、資金調達、グラフィックレコーディング、S D G sに関するスキルアップ講座を5回開催し、延べ107名が参加しました。	
		施策の進捗度		A : 順調に進捗している B : 概ね順調であるが、改善の余地がある C : 遅れている（大幅な改善が必要） 達成： 施策自体の達成	
		実績から みえてきた課題		より積極的に活動できるよう、市民活動団体が必要とする内容の講座を開催する必要があります。	
		課題解決のために 行う取組 (改善点)		アンケートなどの結果を踏まえ、市民活動団体メンバーが必要とするスキルアップを目指した講座の充実を図っていきます。	
A					

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		3	財政面と組織面の支援	担当課	市民協働課
基本施策		(2)	団体の組織基盤整備に関する支援		
事業No		2	町内会長向け研修の実施		
P	事業内容		新任町内会長向けに、新たに町内会役員になる場合に必要最低限の知識やノウハウを学ぶ研修を行います。		
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組		内容や構成の見直しを図るとともに、文章ばかりのものをビジュアル化するなどわかりやすいものにしていきます。		
D C A	令和 元 年 度	事業の実績	ノート掲載内容を最新のものに更新し、全町内会長が参加する総会において、配布・説明を行いました。 また、ノートの内容を一部見直すとともに、某町内会の活用事例をホームページに掲載し、他の町内会にも参考となるようにしました。		
		施策の進捗度	A : 順調に進捗している B : 概ね順調であるが、改善の余地がある C : 遅れている（大幅な改善が必要） 達成： 施策自体の達成		A
		実績から みえてきた課題	某町内会の活用事例は非常に参考となるため、ホームページ以外の方法でも、新任町内会長に広く周知を図る必要があります。		
		課題解決のために 行う取組 (改善点)	某町内会の活用事例はホームページの他に町内会長ノートにも組み込み、全町内会長が活用できるようにします。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針	3	財政面と組織面の支援	担当課	市民協働課
基本施策	(2)	団体の組織基盤整備に関する支援		
事業No	3	町内会長連絡協議会でのパソコン講座の開催		
P	事業内容	パソコン操作など、町内会の運営に必要な能力の向上を図る講座を開催します。		
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組	受講者の技量に合わせた講座となるよう、アンケート結果に基づく内容の見直しを図ります。		
D 令和 元 年度	事業の実績	7月に講座を数回に分けて開催しました。また、前年のアンケート結果を踏まえて、講座内容の見直しを行いました。		
	施策の進捗度	A : 順調に進捗している B : 概ね順調であるが、改善の余地がある C : 遅れている（大幅な改善が必要） 達成： 施策自体の達成	A	
	実績から みえてきた課題	アンケート結果を踏まえた講座内容の見直しに偏りすぎると、パソコンの基本研修となり、「町内会の運営に必要な能力の向上を図る」という目的が果たせない可能性があります。		
	課題解決のため に行う取組 (改善点)	「町内会の運営に必要な能力の向上を図る」という目的のため、町内会の実情と受講者のレベルの調整を図った講座にしてい ます。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		3	財政面と組織面の支援	担当課	市民協働課
基本施策		(2)	団体の組織基盤整備に関する支援		
事業No		4	市民活動団体の組織基盤強化のための講座の開催		
P	事業内容		財務処理やNPO法人設立方法など団体の組織基盤を向上させるための講座を開催し、市民活動団体の運営能力を高める支援を行います。		
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組		引き続き、資金調達と資金管理や情報のインフラ整備など、団体の活動基盤の強化に繋がる支援策等に関する講座の充実を図っていきます。		
D C A	令和 元 年 度	事業の実績	市民活動補助金説明会で、スキルアップ講座として特別講演「団体・活動の資金調達のための3つのコツ」をワークショップを交えて行いました。また、その他にPR方法などのスキルアップ講座を4回開催し、延べ107名の参加がありました。		
		施策の進捗度	A : 順調に進捗している B : 概ね順調であるが、改善の余地がある C : 遅れている（大幅な改善が必要） 達成： 施策自体の達成		A
		実績から みえてきた課題	より市民活動団体の運営能力が高まる内容の講座を検討する必要があります。		
		課題解決のために 行う取組 (改善点)	市民活動団体の組織基盤強化のための講座の充実を図っていきます。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		3	財政面と組織面の支援	担当課	市民協働課
基本施策		(2)	団体の組織基盤整備に関する支援		
事業No		5	市民活動団体の自立を促すための制度の研究		
P	事業内容		市民活動団体が、自立して活動を継続するための、「伴走支援」や「プロボノ」、「ファンドレイジングによる資金調達」などの新たな支援策を研究します。		
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組		団体への伴走支援の仕組みを整えるため、他自治体の制度を研究し、関係課ほか市民交流センターとの協議を取り組んでいきます。		
D 令和 元 年度 A	事業の実績		交流センターにおいて、市民活動団体や活動者への情報提供・継続相談などの伴走支援は、通常業務として行っています。ファンドレイジングは「わくわくセンターまつり」で実施しました。参加者が、頑張っている団体に投票し、その投票数に応じて企業協賛金等を団体へ分配しました。		
	施策の進捗度		A : 順調に進捗している B : 概ね順調であるが、改善の余地がある C : 遅れている（大幅な改善が必要） 達成： 施策自体の達成		A
	実績から みえてきた課題		自立を促す支援を検討する必要があります。		
	課題解決のために 行う取組 (改善点)		引き続き、情報提供や相談などの支援を継続し、その他の支援策について交流センターと取り組んでいきます。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針	4	情報の収集及び発信	担当課	市民協働課
基本施策	(1)	市民活動に関する情報収集・発信		
事業No	1	市民活動に関する情報発信（電子媒体の活用）		
P	事業内容	フェイスブックなどのソーシャルメディアや市民活動情報サイトなどのウェブサイトを活用して市民活動に関する情報を発信します。		
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組	引き続き、市民活動情報サイトや市民交流センターフェイスブックの周知を継続して行うとともに、活用につながる講座を開催していきます。		
D C A	事業の実績	市民活動情報サイトやフェイスブックで情報を発信しました。また、メールマガジンは、団体の代表者のみの登録であったため、誰でも受け取れるLINEとインスタグラムを新たに開始し、情報を配信しました。		
	施策の進捗度	A : 順調に進捗している B : 概ね順調であるが、改善の余地がある C : 遅れている（大幅な改善が必要） 達成： 施策自体の達成		A
	実績から みえてきた課題	多くの市民にLINEやインスタグラム等を周知していく必要があります。		
	課題解決のために 行う取組 (改善点)	引き続き、交流センターのホームページやSNSを周知し、インターネットによる情報提供を継続していきます。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		4	情報の収集及び発信	担当課	市民協働課
基本施策		(1)	市民活動に関する情報収集・発信		
事業No		2	町内会への加入促進に関する啓発		
P	事業内容		町内会への加入を呼びかけるチラシの配布などを通じて、町内会への加入を促進する啓発を行います。		
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組		宅建協会等と連携を図り、町内会への加入を呼びかけるチラシの配布を行うなど、町内会への加入を促進する新たな方法を検討します。		
D C A	令和 元 年 度	事業の実績	令和元年5月15日号広報特集及び町内会会員異動届の配布・受領を行いました。また、宅建協会や農協と町内会への加入を促進するための協議を行いました。		
		施策の進捗度	A : 順調に進捗している B : 概ね順調であるが、改善の余地がある C : 遅れている（大幅な改善が必要） 達成： 施策自体の達成		A
		実績から みえてきた課題	宅建協会にも町内会の加入促進についての必要性や重要性を理解してもらえらるチラシの作成が必要です。		
		課題解決のために 行う取組 (改善点)	引き続き宅建協会と町内会の加入を促進するための協議を重ね、加入を促進するチラシの作成と協定の締結を視野に進めていきます。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		4	情報の収集及び発信	担当課	市民協働課
基本施策		(1)	市民活動に関する情報収集・発信		
事業No		3	マスコミへの情報発信の支援		
P	事業内容		市民活動団体の活動を、団体の依頼に応じて報道機関へ情報提供します。		
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組		他自治体の手法を調査し、市民交流センターと取り組んでいきます。		
D C A	令和 元 年 度	事業の実績	ラジオで市民活動についてのPRを実施しました。また、市民活動団体と市が協働で実施しているイベントについて、キャッチネットワーク及び安城ホームニュースにてPRを実施しました。		
		施策の進捗度	A : 順調に進捗している B : 概ね順調であるが、改善の余地がある C : 遅れている（大幅な改善が必要） 達成： 施策自体の達成		
		実績から みえてきた課題	市民活動団体の活動について、報道機関への情報提供が不十分となっています。		
		課題解決のために 行う取組 (改善点)	報道機関への情報提供を交流センターと実施してきます。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針	4	情報の収集及び発信	担当課	アンフォーレ課
基本施策	(1)	市民活動に関する情報収集・発信		
事業No	4	大型モニターなどを活用した情報発信の支援		
P	事業内容		アンフォーレ内にある220インチモニターや50インチタッチパネルで、団体の情報発信を支援します。	
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組		広報誌や生涯学習情報誌等を活用し、より多くの市民・団体に周知していきます。	
D C A	令和 元 年 度	事業の実績	引き続き、イベント情報などの情報が発信できる「市民投稿掲示板」のサービスを提供しました。市の広報などでサービスをPRすることにより、市民団体等から約300件のイベント告知や仲間募集などの投稿があり、活動をPRする場を提供できました。また、安城市内で活躍する市民団体などを紹介する動画を制作し、220インチで発信することができました。	
		施策の進捗度	A : 順調に進捗している B : 概ね順調であるが、改善の余地がある C : 遅れている（大幅な改善が必要） 達成： 施策自体の達成	A
		実績から みえてきた課題	今年度は「市民投稿掲示板」以外にも情報を発信することができましたが、掲示板自体の投稿数は、新型コロナウイルスの影響もあるが少なくなっていました。	
		課題解決のために 行う取組 (改善点)	掲示板の投稿者数が増えるよう、イベント主催者や商店街など様々な人・場所へPRします。	

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		4	情報の収集及び発信	担当課	市民協働課
基本施策		(1)	市民活動に関する情報収集・発信		
事業No		5	市民活動に関する情報発信（紙媒体の活用）		
P	事業内容		「広報あんじょう」などの紙媒体を活用して市民活動に関する情報を発信します。		
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組		引き続き、広報等の媒体を活用し、市民活動や協働に関する情報提供を継続的に取り組んでいきます。		
D C A	令和 元 年 度	事業の実績	決定した市民活動補助対象事業についてや、公開プレゼンテーション、成果報告会の参加募集などを広報に掲載しました。 また、市民交流センターの施設紹介を「暮らしのしおり」に掲載しました。		
		施策の進捗度	A：順調に進捗している B：概ね順調であるが、改善の余地がある C：遅れている（大幅な改善が必要） 達成：施策自体の達成		A
		実績から みえてきた課題	市民活動に興味をもってもらえる記事にしていく必要があります。		
		課題解決のために 行う取組 (改善点)	市民活動に関する情報について、分かりやすく興味を引く内容となるように検討していきます。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針	4	情報の収集及び発信	担当課	生涯学習課
基本施策	(1)	市民活動に関する情報収集・発信		
事業No	5	市民活動に関する情報発信（紙媒体の活用）		
P	事業内容		「広報あんじょう」などの紙媒体を活用して市民活動に関する情報を発信します。	
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組		代替の配布方法を検討します。	
D C A	令和 元 年 度	事業の実績	生涯学習情報誌「あんてな」を年4回発行（市内全戸配布）し、市民企画講座や市民出前講座の情報を定期的に掲載しました。	
		施策の進捗度	A：順調に進捗している B：概ね順調であるが、改善の余地がある C：遅れている（大幅な改善が必要） 達成：施策自体の達成	A
		実績から みえてきた課題	行政連絡員の廃止に伴い、全戸配布が難しくなりました。	
		課題解決のために 行う取組 (改善点)	新たにA3両面カラーの簡易版を作成し、広報あんじょう折り込みで全戸配布とし、従来の冊子版は各号2,000部発行に抑え、市内公共施設での配布に切り替えていきます。	

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針	4	情報の収集及び発信	担当課	社会福祉協議会
基本施策	(1)	市民活動に関する情報収集・発信		
事業No	6	ボランティア活動に関する情報発信		
P	事業内容	社協だよりやボランティアセンターウェブサイトなどを活用してボランティア活動に関する情報を発信します。		
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組	チラシや社協だよりでの紙媒体での情報に加え、ウェブサイトでの情報発信を行い、老若男女問わずに情報収集できる環境づくりを実施します。		
D C A	令和 元 年 度	事業の実績	社協だよりにて、登録ボランティア団体の情報や特集記事を掲載しています。また、ウェブサイトを用いて、ボランティアに関する講座などの情報を発信しています。	
		施策の進捗度	A : 順調に進捗している B : 概ね順調であるが、改善の余地がある C : 遅れている（大幅な改善が必要） 達成： 施策自体の達成	B
		実績から みてきた課題	ボランティア団体の活動の様子など、団体が実際にどのようなボランティア活動をしているのかについて、具体的にイメージするための材料を提供できていません。	
		課題解決のために 行う取組 (改善点)	チラシや社協だより等の紙媒体を通じた情報提供に加え、ウェブサイトを通じて年代問わず情報にアクセスできるようにします。また、ニーズに沿った情報を提供できるよう、ボランティア活動者や活動希望者の意見を積極的に取り入れていきます。	

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針	4	情報の収集及び発信	担当課	市民協働課	
基本施策	(2)	市民活動に関する理解の促進			
事業No	1	イベントなどを活用した市民活動に関するPRの実施（1-（1）-1 再掲）			
P	事業内容	多くの市民が集まるイベントなどを活用し、市民活動に関するPRをする事で、市民の理解を深め、市民活動への参加のきっかけづくりを行います。			
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組				
D C A	令和 元 年 度	事業の実績	1-（1）-1と同じ		
		施策の進捗度	A : 順調に進捗している B : 概ね順調であるが、改善の余地がある C : 遅れている（大幅な改善が必要） 達成： 施策自体の達成	A	
		実績から みえてきた課題			
		課題解決のために 行う取組 (改善点)			

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針	4	情報の収集及び発信	担当課	市民協働課
基本施策	(2)	市民活動に関する理解の促進		
事業No	2	市民活動や多様な主体による協働事例の発表会の開催		
P	事業内容	市民活動や、市民活動団体、町内会、事業者などの多様な主体による協働事例の発表会を公開の場で開催します。		
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組	事例発表として、市民活動補助制度を活用し、事業実施のあった協働事業を成果報告会の場で公開し開催していきます。 団体に対しては、他団体との協働を行った上での経験から、メリット等を実例的に示してもらえよう働きかけを行います。		
D C A	令和 元 年 度	事業の実績	交流センター開催の「団体交流会」において、協働事例の発表や啓発を実施しました。 また、3月開催の市民活動補助事業の成果発表会が、新型コロナウイルス感染症の拡大防止により中止となり、協働事業の発表ができませんでしたが、1月開催の補助対象事業公開プレゼンテーション（補助金本審査）では、対象団体が、次年度予定する事業とこれまでの協働実績を発表しました。	
		施策の進捗度	A : 順調に進捗している B : 概ね順調であるが、改善の余地がある C : 遅れている（大幅な改善が必要） 達成： 施策自体の達成	A
		実績から みえてきた課題	協働団体の役割分担が分かりづらい部分がありました。	
		課題解決のために 行う取組 (改善点)	協働団体の役割分担が明確となり、さらにメリット等を示してもらえようように働きかけます。	

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

	基本方針	4	情報の収集及び発信	担当課	市民協働課
	基本施策	(2)	市民活動に関する理解の促進		
	事業No	3	「協働事業事例集」の発行		
P	事業内容		市内の身近な協働事例を整理し発行することで、「協働」を分かりやすく市民に周知します。		
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組		引き続き、市民への協働に関する必要性とその理解を促し、市民活動への参加のきっかけに繋がるよう、研修やイベントなどで事例集を活用し、周知を行っていきます。		
D C A	令和 元 年 度	事業の実績	ユースカレッジ受講生に、協働事業事例集「コネクト」を配布し、福祉まつりや男女共同参画のイベントでも配布、啓発しました。また、交流センター発行の季刊誌「ぼらりん」や館内掲示、SNSにおいて、協働事業・マッチング事例などの情報を提供しています。		
		施策の進捗度	A : 順調に進捗している B : 概ね順調であるが、改善の余地がある C : 遅れている（大幅な改善が必要） 達成： 施策自体の達成		A
		実績から みえてきた課題	事例を収集し、効果的な周知方法を検討する必要があります。		
		課題解決のために 行う取組 (改善点)	協働を分かりやすくまとめ、多くの市民に周知できるよう広報などでも周知していきます。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針	4	情報の収集及び発信	担当課	市民協働課
基本施策	(2)	市民活動に関する理解の促進		
事業No	4	市民協働に関する啓発		
P	事業内容	市民協働に対する理解を深めてもらうため、地域課題を解決するための協働事例について、その先進事例を紹介するフォーラムや、出前講座などを実施します。		
	前年度(Action) 課題解決のために行う取組	引き続き、市民への協働に関する必要性和その理解を促すため、社会課題の解決に取り組む先進的な講師を招いた講演を開催するなど、参加者自身が市民協働のまちづくりとは何かについて、振り返り、次のアクションに繋がる場を目指した、催しの開催に取り組んでいます。		
D C A	令和 元 年 度	事業の実績	平成28年から国をあげて推進されているSDGsに関する初心者向け講座「SDGs勉強会 市民活動も企業も知っておきたい”17の目標”」を開催しました。	
		施策の進捗度	A : 順調に進捗している B : 概ね順調であるが、改善の余地がある C : 遅れている（大幅な改善が必要） 達成： 施策自体の達成	A
		実績から みえてきた課題	SDGsは新しい分野のため、多くの市民に知ってもらうところから始める必要があります。	
		課題解決のために 行う取組 (改善点)	引き続き、SDGsについての講座などを開催し、理解を深め、市民活動にも取り入れられるように取り組んでいます。	